

ミカン生育情報

千葉県
平成30年8月号

平成30年7月の気象

平成30年7月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第6半旬を除く5半旬で平年を上回った。月平均気温は26.6℃で、平年より2.3℃、前年より1.0℃高かった。

降水量は第3及び第6半旬を除く4半旬で平年を下回り、第4及び第5半旬では降雨がなかった。月合計は155mmで、平年の80%と少なかった。

日照時間は第6半旬を除く5半旬で平年を上回った。月合計は256時間で平年の151%、前年の102%であった。

7月28日に台風12号が三宅島付近を通過したが、大きな被害はなかった。

表1 平成30年7月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	25.8	22.7	25.5	7	37	16	42	21	32
2	26.0	23.3	25.0	25	44	0	37	23	50
3	26.8	24.4	25.8	53	38	0	38	25	59
4	27.5	24.7	25.6	0	23	13	53	28	41
5	27.7	25.1	26.4	0	25	0	49	32	37
6	25.5	25.8	25.3	70	27	10	37	42	32
平均/計	26.6	24.3	25.6	155	194	39	256	169	250

果実及び樹の生育

南房総市内の2か所の園地と暖地園芸研究所における温州ミカンの園全体の着果量は、早生温州、普通温州ともに昨年より少なく、裏年の傾向である。しかし、樹によるバラツキがあり、適正に着果している樹も見られる。

8月1日における調査園の果実生育状況を表2に示した。早生温州は横径、縦径の平年比がそれぞれ114、112%でやや大きかった。普通温州は横径、縦径の平年比がそれぞれ128、119%で大きかった。2015年から調査している極早生温州「日南1号」は、横径、縦径が前年比103、108%で平年並みであった。温州ミカンについては、開花が早く、梅雨明けも早く好天に恵まれ、さらに裏年で着果負担が少ないため、8月1日時点の肥大は平年に比べて大きかった。

病虫害の発生状況としては、暖地園芸研究所に飛来する果樹カメムシ類は、6月までは多い個体数で推移していたが、7月に入ってからかなり個体数が減少した。ダニ類の発生は7月の中旬に暖地園研内でミカンサビダニの加害を受けた果実を数個発見し、直ちに殺ダニ剤を散布したため、その後はミカンサビダニの被害果はみられなくなった。温州ミカンでのそうか病の発生は風通しの悪い部分などで散見される程度、かいよう病は一部罹病性の中晩柑やレモンで軽～中程度発生している。

一部カンキツで7月中旬に土壌の乾燥による葉の巻きが見られた。夏期において降雨が少なく、乾燥により葉が巻いている樹は、樹勢が低下しやすくその後の降雨による裂果もしやすい。対策として適度にかん水を行うことや、敷き藁を行うことが望ましい。

表2 果実の生育（平成30年8月1日）

No.	種類・品種	調査地	横径 (cm) *2	縦径 (cm) *2
1		三 芳	4.2 (112)	3.8 (111)
2	興津早生	千 倉	4.2 (108)	3.6 (102)
3		暖地園研	4.8 (122)	4.2 (122)
4		三 芳	4.7 (127)	4.0 (125)
5	大津4号	千 倉	4.5 (119)	3.6 (114)
6		暖地園研	5.8 (162)	3.7 (123)
7		三 芳	4.5 (123)	3.9 (121)
8	青島温州	千 倉	4.2 (111)	3.5 (108)
9		暖地園研	4.6 (126)	3.8 (123)
10	日南1号	暖地園研	4.8 (103)	4.2 (108)
	平均*1	早生温州	4.4 (114)	3.9 (112)
		普通温州	4.7 (128)	3.7 (119)

() の数字は平年値（平成10～29年の平均）を100とした比数

※「日南1号」は平成27年から調査したため、平成27～29年の平均を100とした比数

*1 早生温州：No.1～3の平均、普通温州：No.4～9の平均

*2 各値は2樹40果の平均

8～9月の栽培管理

・摘果

粗摘果が済んでいる樹については、粗摘果から1か月後を目安に仕上げ摘果を行う。粗摘果が済んでいない、もしくは取り切れていない樹については、なるべく早めに内なり、裾なり、ふところなりの果実を摘果し、病害果、虫害果、キズ果等の外観不良果を優先的に全体を軽く間引き摘果する。

仕上げ摘果は果実の大きさや外観、品質を揃えるための作業で、傷果や奇形果を取り除きつつ、適正葉果比（早生温州では30葉に1果、普通温州では25葉に1果）に近づけるようにする。

着果量の少ない樹は、着果負担や水分ストレスがかかりにくくなり品質が悪くなるため、粗摘果は行わず収穫1か月前頃の樹上選果を行う。

中晩柑は、目安として7月下旬までに葉果比80程度で粗摘果を行い、その後、8月中に仕上げ摘果で葉果比100～120程度にすることが目標であるが、品種によって大きく異なるので、事前に調べてから摘果をする。

・マルチ資材の被覆

高品質果実の生産にマルチ栽培は有効である。被覆の時期は、早生温州は7月下旬、普通温州は8月上旬を目安に開始する。果実表面の緑色が淡くなり始め果肉が赤みを帯び始める時期までは土壌水分を制限する。土壌の乾きやすさや灌水設備の有無によって、被覆開始時期や地表面に対する被覆割合を調節する。マルチ栽培の適地は、水はけと日当たりが良く、着果量が中程度以上の園地である。水はけが悪い園地では、排水性を向上させ、併せて間伐（冬期実施）と防風垣の刈り込みを実施し日当たりを良くする。土壌水分の把握には、機器の利用も効果的であるため各々検討する。

- ・ **病害虫の防除** 防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

温州ミカン

果樹カメムシ類 園地の立地条件により飛来する量が異なる。加害により、落果や食べる際に果皮がむきにくくなる等の被害が出る。日暮れ頃に園を見まわり、飛来数が多い場合は、薬剤防除を行う。防除は動きの緩慢な朝方か、飛来の多い夕方に行う。

ミカンハダニ 気温が低下し始める8月下旬以降に増殖する。この時期の加害は果実の外観を悪くするため、収穫期まで発生に注意し防除を行う。9月以降の防除の目安は、寄生葉率20%（葉10枚のうち2枚にハダニが寄生している状態）である。

ミカンサビダニ 高温乾燥条件で発生量が増える。7～9月頃は果実上で生活しているため、果実が加害される。前年に発生が見られた園や7月に防除を行っていない場合は注意深く観察し、初期防除に努める。なお、ダニ類の防除の際には、同じ系統の成分を含む殺ダニ剤の連用は避ける。

黒点病 降雨により伝染するため、秋雨前に防除を行う。樹上の枯れ枝が伝染源となるため、見つけ次第ハサミ等で取り除く。収穫の早い極早生温州では、農薬の使用から収穫までの日数と使用回数について、特に注意をする。

褐色腐敗病 発生がみられた場合は早期に農薬の散布を行う。毎年発生している園では、長雨の前に予防的に農薬を散布する。

中晩生カンキツ類

病気の発生のしやすさは、品種や園の条件によって異なる。そのため、品種及び園により防除の必要性が異なる。また、温州ミカンと混植・隣接している場合は、登録内容が温州ミカンと異なる薬剤もあるため使用には注意を払う。

9～10月はミカンハダニの発生に注意し、防除を行う。

台風の前には、かいよう病対策として銅水和剤を散布する。高温時は薬害が出やすいため、クレフノン（200倍）※を混用する。

秋雨前に黒点病の防除を行うが、農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《生育情報の問合せ先》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>